

モンゴルにおける「雨期中休み」の特徴

岩崎 博之（群馬大学教育学部）・新居 知巳（群馬大学教育学研究科）

1. 目的

7月中旬に「雨期中休み」と呼ぶべき現象が存在する。
その報告と特徴の記述。

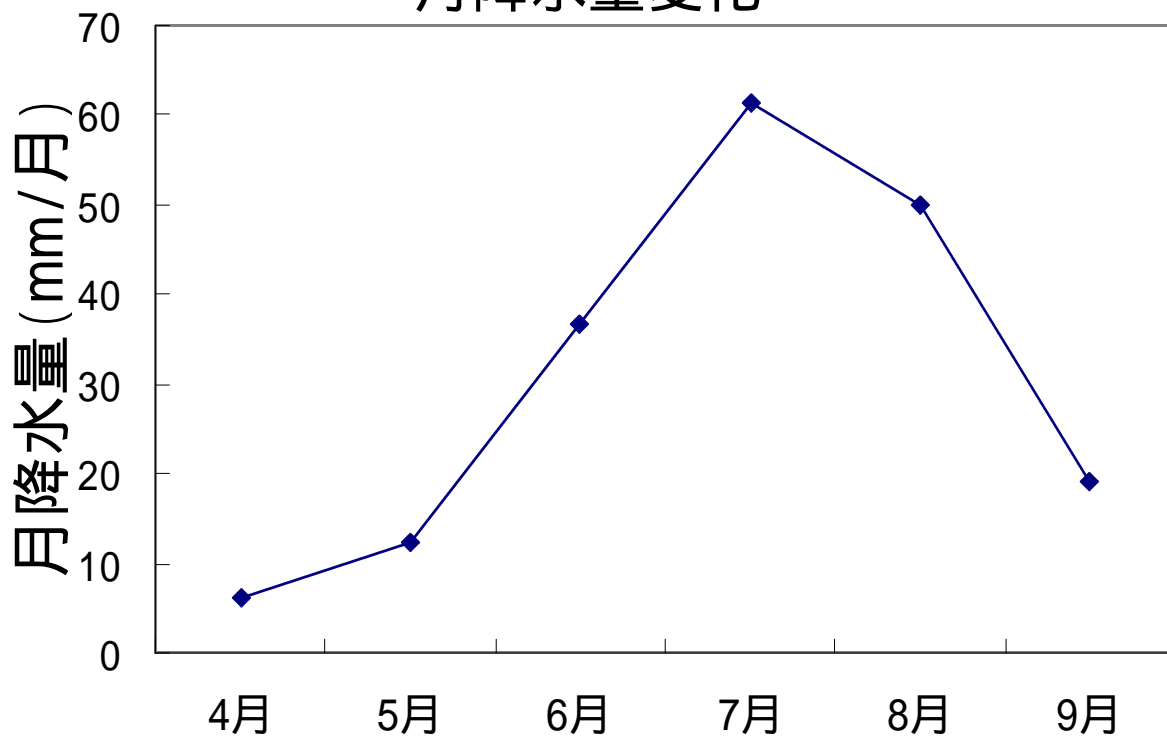
2. データ

- a. 92地点の地上気象データ（モンゴル気象水文研究所 提供）
 - ・ 降水 --- 09 + 21 LST

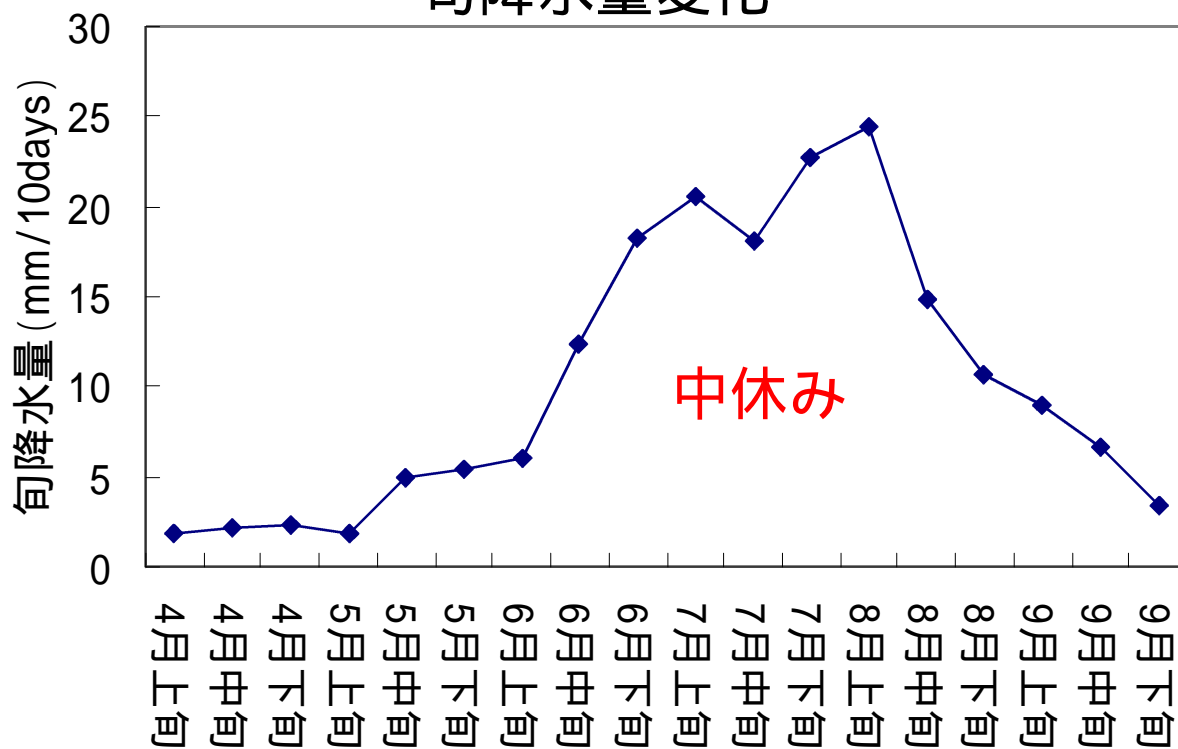
- b. 解析期間
 - ・ 1993-2001年4 - 9月（9シーズン）

92地点で平均した月降水量・旬降水量の時間変化

月降水量変化



旬降水量変化



3. データの品質検査

次の手順で解析地点を選ぶ

- 手順 各地点に於いて 4-9 月の欠測が 5 回以上の年は不採用
手順 7 シーズン未満の地点は不採用

その結果，92 地点のデータが採用された．

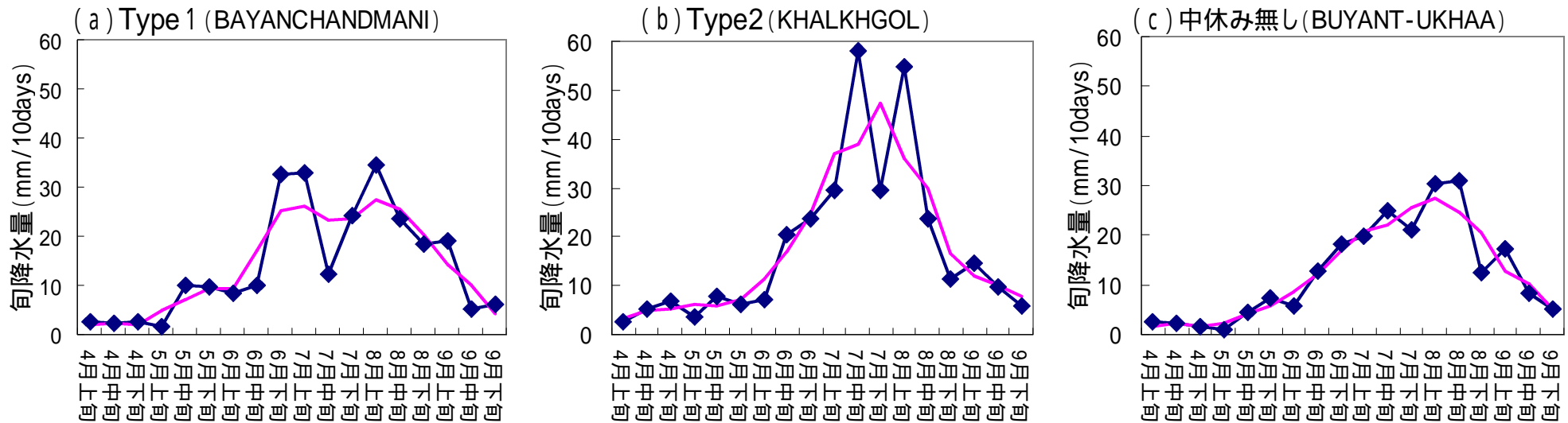
解析データの品質

- ・ 92 地点全てにおいて，解析期間の欠測は 5 回未満
- ・ 6-8 月に欠測は皆無．

欠測が解析結果に影響しない

4. 結果

・各地点の「雨期中休み」の定義



第3図

3旬の移動平均を施す。

6月～8月に降水量の極小が存在する。

雨期中休み有

(第3図・(a) Type1)

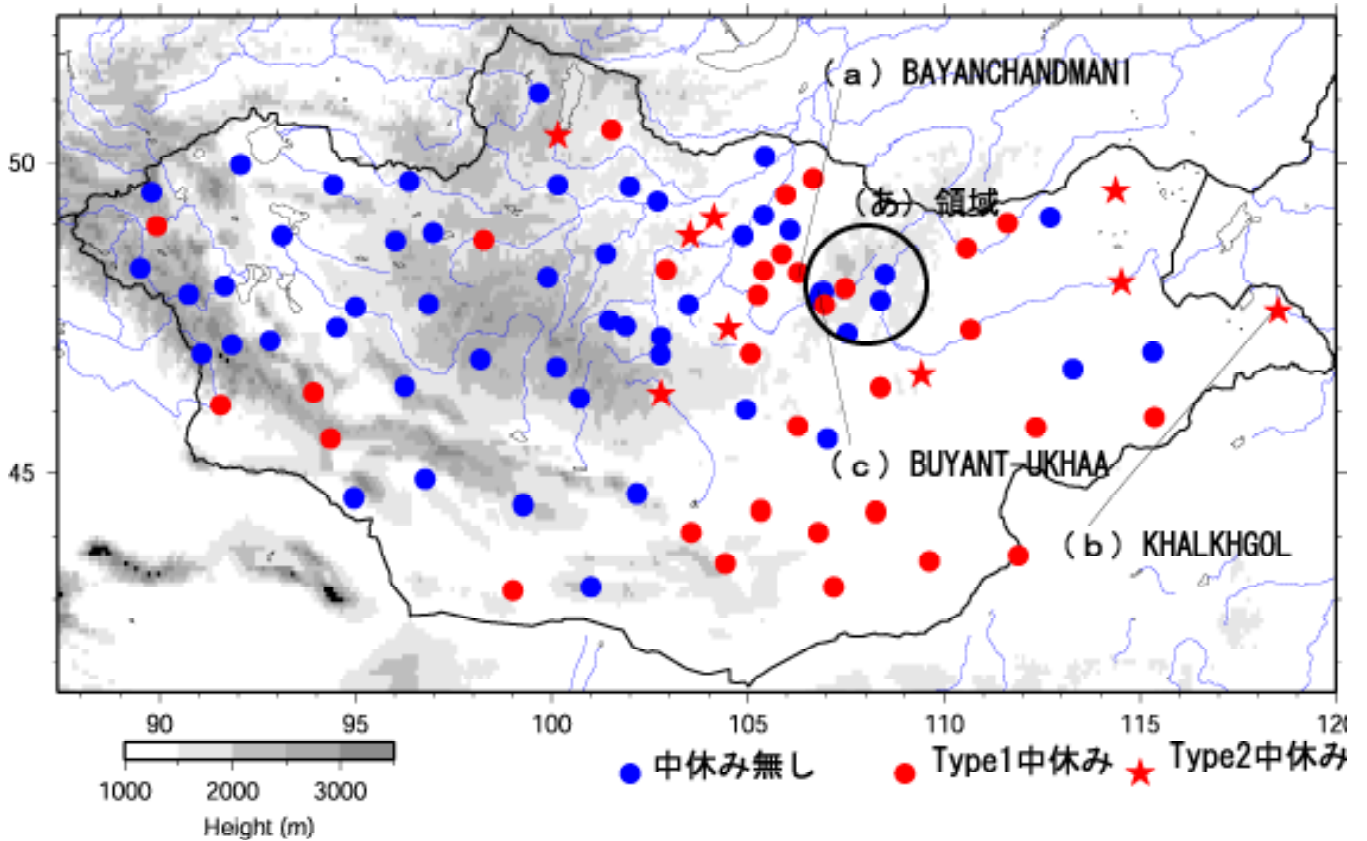
両極大の平均旬降水量と旬降水量の極小との差が10mm/10days以上

雨期中休み有

(第3図・(b) Type2)

それ以外は中休み無し (第3図・(c) 中休み無し)

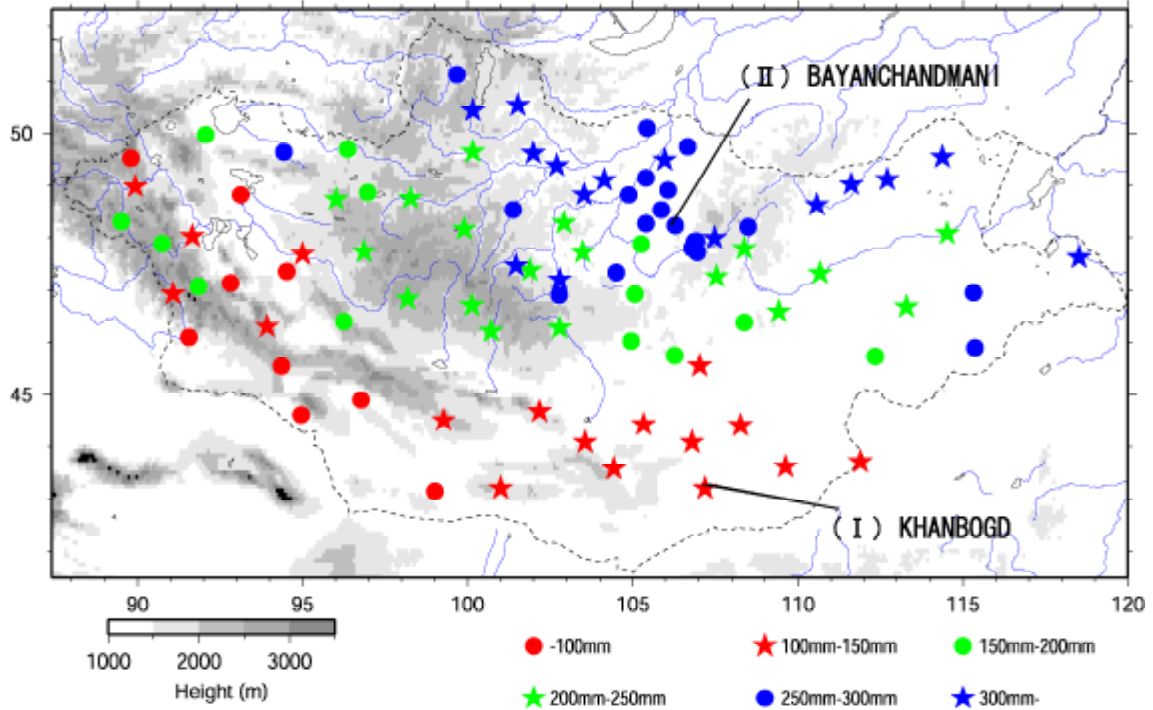
「雨期中休み」が認められた観測点



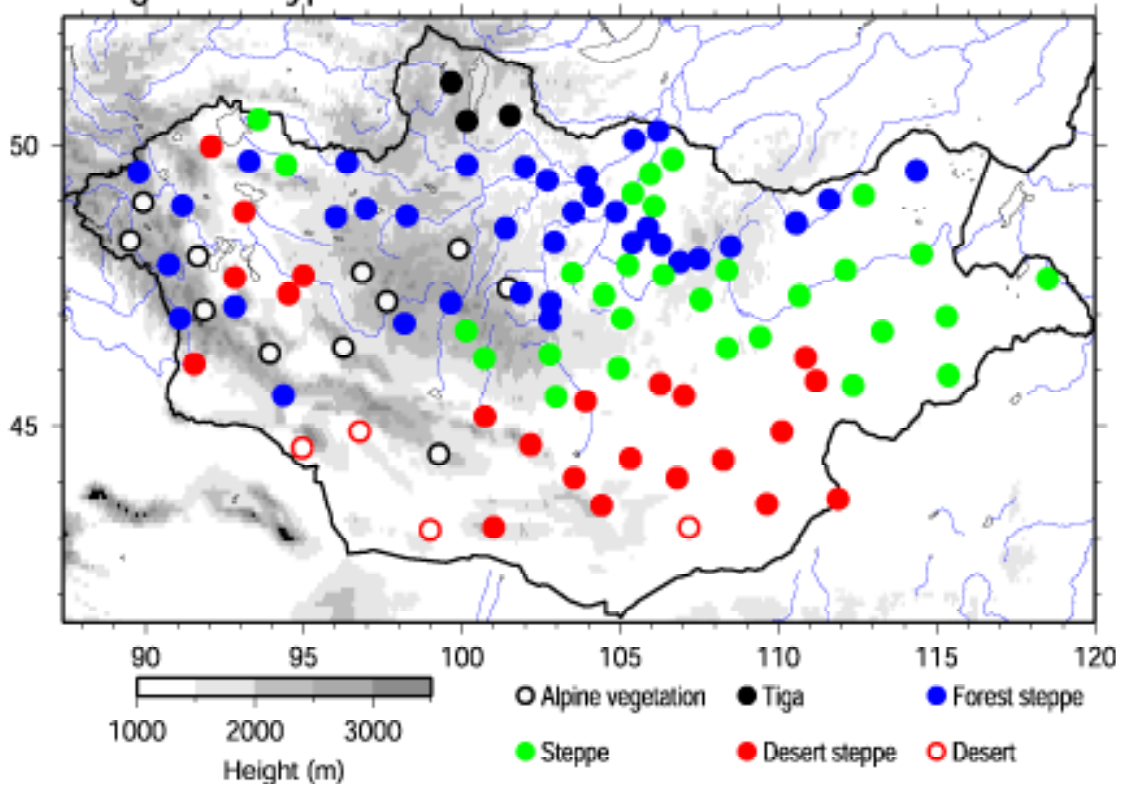
- Type1中休み () . . . 32地点
- Type2中休み () . . . 9地点
- 中休み無し () . . . 51地点

モンゴル東部で、「中休み」が明瞭
モンゴル西部で、「中休み」は不明瞭

年間降水量分布と植生分布

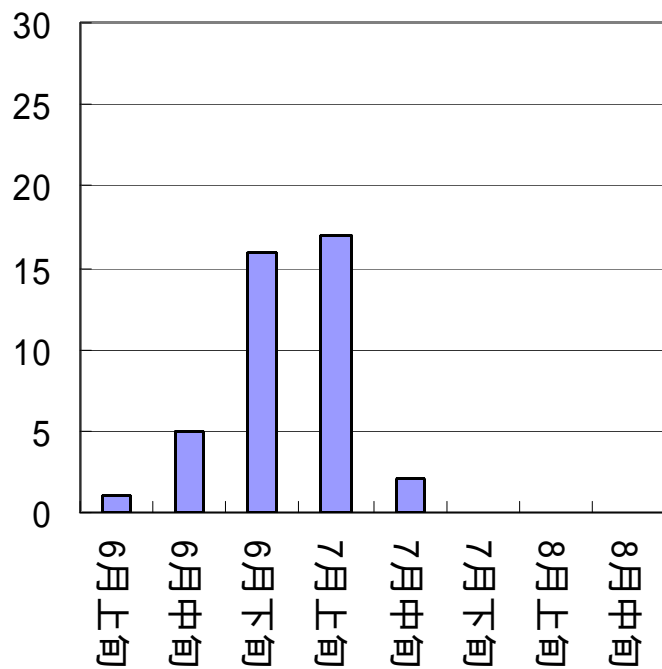


Vegetation type



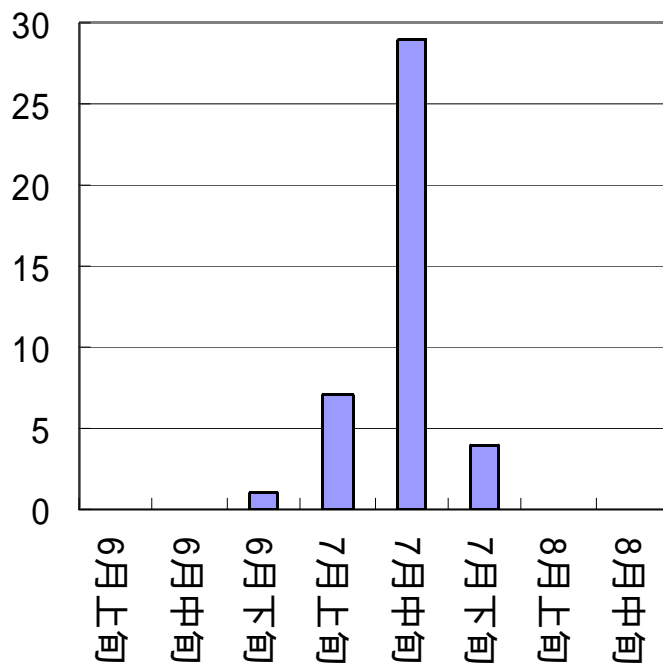
・「雨期中休み」の季節依存性

第1 極大発現時期



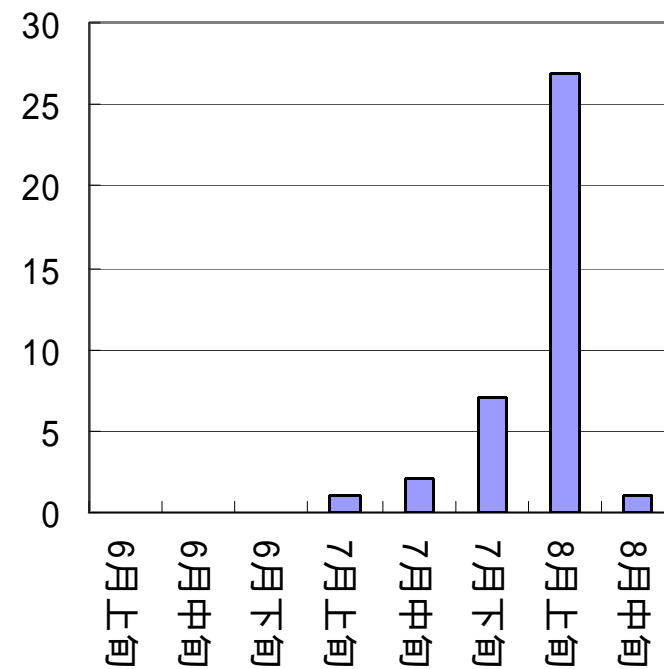
80%が6月下旬+7月上旬

「中休み」発現時期



71%が7月中旬

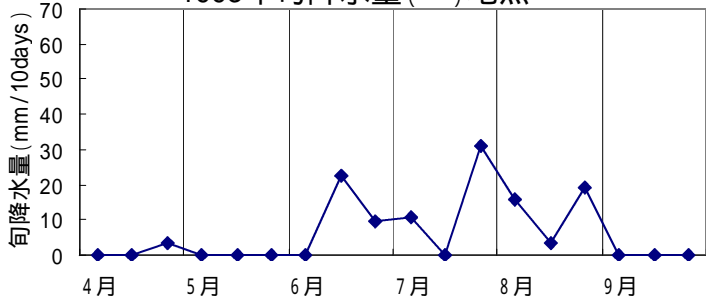
第2 極大発現時期



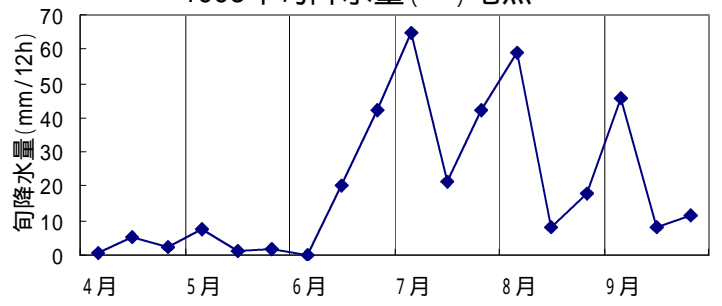
66%が8月上旬

12時間降水量で見た「雨期の中休み」

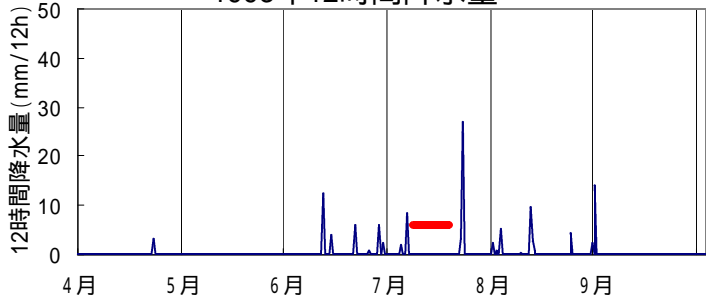
1993年旬降水量()地点



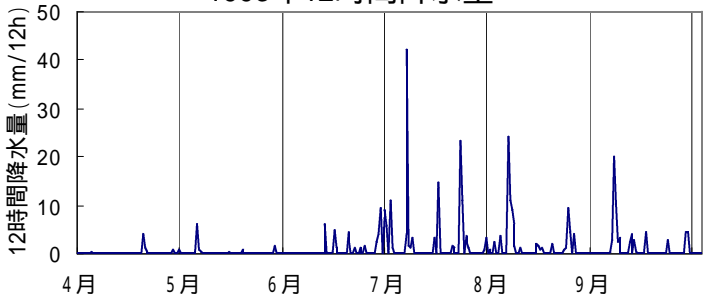
1993年旬降水量()地点



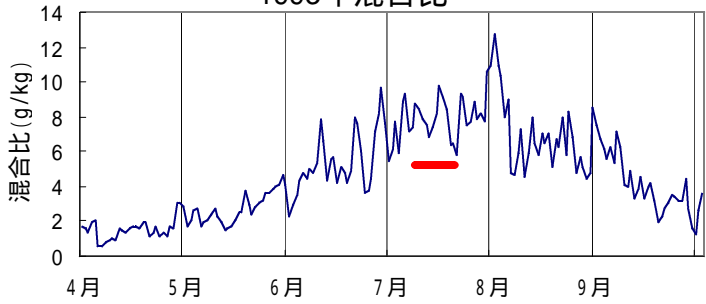
1993年12時間降水量



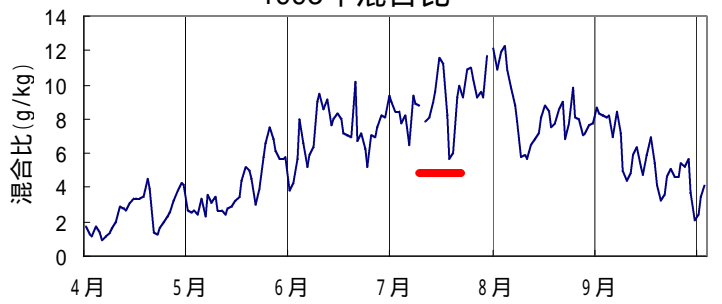
1993年12時間降水量



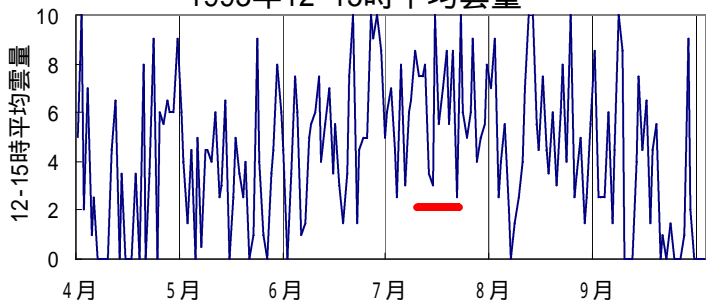
1993年混合比



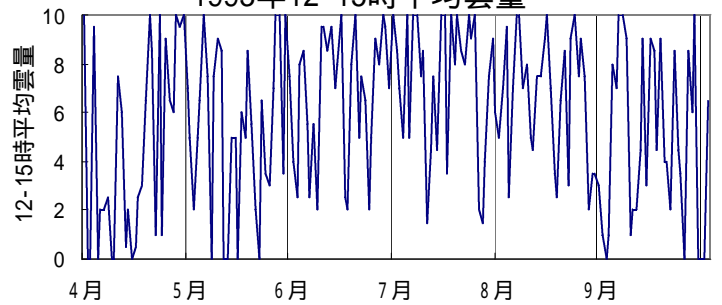
1993年混合比



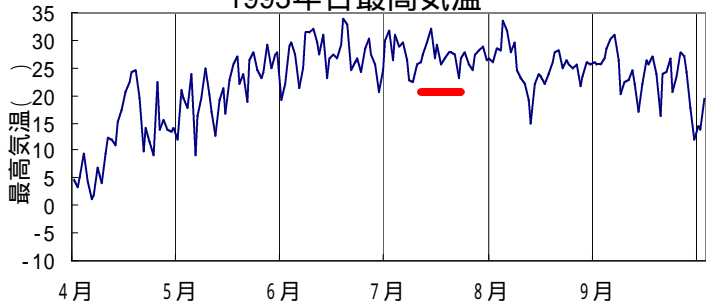
1993年12-15時平均雲量



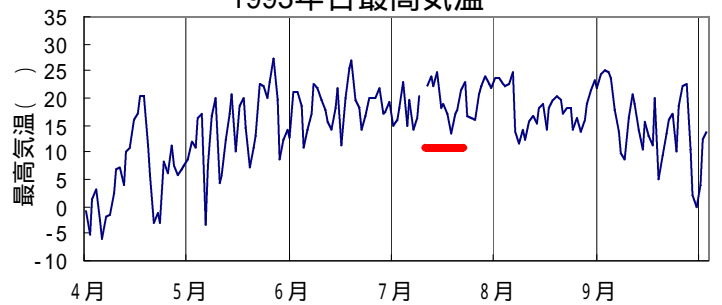
1993年12-15時平均雲量



1993年日最高気温



1993年日最高気温



5. まとめ

1. モンゴルには、7月中旬に「雨期中休み」が存在
(Oyuanjaugal 女史・Gambold さんも知らなかった)
2. 「雨期中休み」は "暦" に固定されている
6月下旬 + 7月上旬： 第1極大
7月中旬： 中休み
8月上旬： 第2極大
3. 「雨期中休み」東部モンゴルで明瞭・西部で不明瞭
4. 乾燥域では「第1極大」と「中休み」の降水量が、
植生活動度に影響する